

平成28年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立加茂農林高等学校

学校番号 37

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「至誠勤労・質実剛健」及びスローガン「いのちを育み そしていのちから学ぶ」の下 (1) 夢の実現を目指す生徒一人ひとりの良いところを見つけ、励まし支える教育を推進する。 (2) 広い視野と高い志をもって地域社会に貢献できる人材を育成する。		
2 評価する領域・分野	◇学校運営		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	①昨年度のアンケート結果、学校運営全般に対して生徒・保護者双方から高い評価を得た。一方、学校からの情報不足が原因で保護者の評価が伸び悩んでいる項目も散見される。積極的情報提供が必要である。 ②3カ年取り組んだ評価手法に関する調査研究の成果を今後の学習指導の改善に活かしたい。 ③校内の優れた学習環境を活かしきるため、標示を工夫し、生徒の学習の定着と帰属意識の高揚及び学習成果の発信に役立てたい。 ④職員の健康診断における要医療・要精検の割合が高いため、校務の整理、多忙化の解消に努め、職員の心身の健康増進を図る必要がある。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	①積極的な情報発信、広報活動を推進する。 ②評価手法に関する調査研究を踏まえて授業改善を推進する。 ③農場、実験実習室、校内樹木・庭園・花壇等の標示を充実させる。 ④諸会議・委員会の整理統合など校務のスリム化を図るとともに、時間外勤務時間の短縮の啓発を推進する。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	教務部、農場部、各学科をはじめ、校内の各分掌等において具現化し実施する。		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
①ホームページのこまめな更新、効果的なメール配信、報道機関への積極的情報提供などの推進 ②パフォーマンス課題とルーブリックによる評価手法を全校的な取組に発展させる ③圃場・温室・動物舎等の栽培・飼育計画表、実験実習室の室名、装置・設備の説明標示、樹木名の標示、庭園・花壇・木材遊具等の作品紹介標示を整備する。 ④諸会議・委員会を整理統合など業務量の縮減と時間外勤務時間の縮減の推進	①学校HPの更新頻度の増加、保護者のメール登録率維持(95%)、メール発信情報の精査と件数の増加、新聞等掲載件数の増加(60件) ②普通教科におけるパフォーマンス課題の導入(導入教員数) ③栽培・飼育計画表、室名標示、装置等の説明標示、樹木標示、作品紹介標示の整備(100%) ④「8のつく日」の完全実施、「ノー残業デー」の設定実施、退勤簿の入力徹底、健診結果の分析等		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
①刷新した学校HPの精力的な更新、報道への積極的な情報提供、保護者へのメール登録の依頼 ②言語活動やパフォーマンス課題の全校的な取組 ③農場・校庭・実習施設の整備と標示の徹底 ④時間外勤務時間の縮減啓発	①全学科・部のHP更新、トピックス随時更新、保護者メール登録93%、新聞等掲載60件(2/21目標達成) ②実施教員数：言42/45、パ26/45 ③外の標示・整備完了(遅れたが) ④退勤簿100%、「8」「N0残」完全実施、健診結果改善、交通事故減	(A) B C D A (B) C D A (B) C D (A) B C D	
11 成果・課題	㊦ 各学科や教務部を中心に、学校HP活用や報道機関への積極的情報提供の意識が随分高揚した。 ㊧ 農場の整備は時間を要したが概ねできた。さらに継続・発展させたい。 ㊨ 「8のつく日」「ノー残業デー」を完全実施できた。健康診断の結果が改善され、交通事故の減少といった付随効果も顕れた。		
12 来年度に向けての改善方策案	㊦について 報道機関への計画的・戦略的な情報提供、「すぐメール」の生徒活躍速報としての活用。 ㊧について 樹木の説明標示の充実、及び実習室など屋内の施設・設備の標示の改善充実。		
11 成果・課題		総合評価	
		A (B) C D	

2 領域・分野	◇教育課程・学習指導、研修	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	平成27年度学校アンケートより ・項目「選択授業や少人数授業を行い、生徒の理解を高めようと努力している」→否定値が高い ・項目「授業を通して一人一人の能力に応じた指導をしている」→減少、否定値が高い ・平成28年度一般選抜出願数→募集定員に満たない出願数	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・岐阜県教育ビジョンを見据えた授業観の発信と実践（授業改善） ・生徒指導要録等重要書類の整理と記載方法の統一 ・魅力のある学校情報の発信	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・各部との連携を図った組織体制 ・外部組織（農教研総合研究、授業改善委員会）との連携	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)授業に対する生徒意識調査とそこから見えてくる課題の解明 (2)様々な授業改善に役立つ職員研修 (3)重要書類等の保存、記載に関する指標づくり (4)学校ホームページ、学校案内、紹介プレゼンの再考（有効な利用方法も含む）	(1) 各種調査からできた授業改善 →1学期中に課題の解明と授業改善の立案 (2) 公開授業、研修からできた授業改善 →2学期末までに年間指導計画、単元計画の再考 (3) 重要書類の整理・整頓→1学期中 (4) 年度末の生徒指導要録の作成における統一・正確 ・省力の観点での教員アンケート→年度末 (5) 中学生の反応、次年度入学生からのアンケート →次年度での評価	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(0)円滑な学校行事の企画・運営 (1)独自アンケート、授業アンケートからの課題の発見 (2)授業改善に向けた職員研修の実施 (3)重要書類等の整理と書類整備の指標作り (4)ホームページの充実、学校案内(スクールガイド)の制作	(0)各分掌との連絡調整 (1)分析結果の発信と取り組み (2)研修の成果を生かした授業の実践 (3)授業参観の参加率 (4)重要書類等の整理 (5)内容と情報発信の効果	A (B) C D A B (C) D A (B) C D A (B) C D (A) B C D (A) B C D
1 1 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度課題を踏まえ、各分掌と連携して学校行事の企画・運営が出来た。 ・各種学校行事についても、全職員の協力の下円滑に実施できた。 ・アクティブ・ラーニング研修、各種アンケートを利用した分析は実施できた。生徒アンケートの結果、成果が見られた。（独自アンケートの結果） ・授業スタイルを次年度年間指導計画の再考という形でまとめられた。 ・重要書類の整理をかねて書類整備と保管に関する指標が出来た。 ・外部への発信源である、ホームページについては更新度合いの向上。スクールガイドについては計画的な編集ができた。 ・放送機器が老朽化しており、管理及び使用方法が徹底されていない。 	
1 2 来年度に向けての改善方策案	「中学生が学びたい学校No.1」になるためには何をすればいいのか。 Step 1. 教員研修研究授業、参観授業を利用して指導力向上を図る。 Step 2. 今年度授業改善の取組を次年度どのような形でステップアップするか。 Step 3. 情報発信源としての、ホームページ、学校案内（スクールガイド）のさらなる充実。	

2 評価する領域・分野	◇生徒指導、教育相談
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	平成27年度学校アンケートでは、保護者・生徒ともに項目「いじめや差別を許さず、厳しく対応している」の評価が低い。また保護者はいくつかの項目で取組の状況が「わからない」と答えている。
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	「豊かな人間関係を築き、地域社会人として考え行動し、自らの夢に挑戦できる姿」の具現に向け、継続的な生活指導を図る。 ①命を守り生活を守る ・交通安全の徹底（道路交通法を厳守する） ・生活安全の徹底（スマホ・ネットの使い方・情報モラル）

	②生徒の自立を促す生徒指導 ・社会的自立：時間を守る・身なりを整える・元気な挨拶をする ・精神的自立：物事の善悪を判断できる・思いやりの心・高い人権意識	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	学科・学年会との連携、および教育相談組織の活用	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
①交通とネットワークについて、ルールとスキルを身に付けさせる。 ②時間・身だしなみ・授業規律・問題行動等の未然防止と対応 ③真に生徒を大切にしている指導姿勢と、いじめ・人権に反する言動を見逃さない。 ④教育相談を機能させ、生徒個人および集団のよりよい学校生活を実現させる。(SCの活用) ⑤積極的に学校の情報発信するとともに、外部の意見を吸収し、協力を引き出す。	①自他の安全を意識した具体的な行動面の変容。(交通事故件数0、情報モラル違反事案0を目指す。) ②遅刻総計(400回以下)、身だしなみの変容、問題行動事案件数(20件以下)。 ③級友や教員、地域社会の方とのコミュニケーション場面等で、人権意識のある態度ができてきているか。 ④必要な相談が確実に行われたか。相談の存在が充分広報できたか。 ⑤家庭・地域に広報を通じて学校の様子を発信できたか。職員が積極的に外部へ出向いたか。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①各講話・講習の実施と街頭指導 ②全職員による登校指導と遅刻指導の実施 ③生徒理解に基づく生活指導の展開 ④アンケート等を活用して生徒状況の把握 ⑤外部との連携を活用した情報発信・収集	①交通事故・情報モラル違反事案の減少 ②延べ遅刻数 ③問題行動事案件数 ④調査の実施と活用 ⑤情報収集と発信の頻度	A (B) C D (A) B C D A (B) C D (A) B C D A (B) C D
11 成果・課題	<p>●交通事故発生件数の増加「H28 9件 H27 5件」 9件中8件が自転車での接触事故のため自転車の運転マナーを徹底する。</p> <p>○遅刻総数の減少「H28 314 H27 418」 朝の当番指導や先生方の呼びかけにより、減少することができた。</p> <p>○問題行動事案件数の減少「H28 19件 H27 21件」 19件の内11件が特別指導であり、精神的自立を促す指導の徹底が必要。</p> <p>○生徒会・MSリーダーズを中心に挨拶運動を行うなど、生徒の自主的な活動が活発化している。</p> <p>●行方不明・授業の中抜け等生徒の安全を確保できない事案に対する指導や未然防止策の徹底</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	保護者に生徒指導部の方針や学校規則等を周知徹底し、家庭との協力を大切に生徒を指導していく体制を構築する。	

2 領域・分野	◇進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	学科試験が行われない就職先を選択したり、AO入試等で早期に安易に進路先を決めてしまう生徒が少なからず存在している。キャリア教育のより一層の充実が求められている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>「社会的・職業的な自立に必要な能力や態度」を育てるために、キャリア教育を踏まえた進路指導の充実を図る。</p> <p>①あらゆる機会を通して、基礎学力を確実に身に付けさせる。 ②主体的で意欲ある進路活動に結びつかせるための「選抜ポイント」を意識させ、将来の自分の姿を具体的に思い描かせる機会を設ける。</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	各学科・学年、各学級、教務部等各分掌と協力・連携して実施する。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
①あらゆる機会を通して、基礎学力を身に付けることの重要性を認識させる。 ②個々に応じた具体的な進路目標を持たせるために、将来の自分の姿を具体的に思い描かせる機会を設定する。	①進路補習、SPI学習会、面接指導等を成果に結びつけることができたか。 ②年ごとの到達目標を明確にし、進路に関する思考表現活動を働きかけたか。	

③必要な進路情報をいつでも提供できるよう準備する。	③求人票情報、入試情報等を共有し、有意義に活用することができたか。	
④「選抜ポイント」を意識した学校生活を送るよう働きかける。	④学校生活の指標のひとつとして「選抜ポイント」が定着しているか。	
⑤より広範囲な進路先の確保のため、求人開拓及び大学等の情報収集に努める。	⑤求人開拓、情報収集を進路決定に結びつけることができたか。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①基礎学力向上のための取組 教科担任の協力による事前事後指導、就職試験問題の掲示	基礎力診断テストの結果の推移 小テストの取り組み状況	A (B) C D
②進路情報の提供 求人票、指定校一覧の全校配布、データ化による利用促進	教員（生徒）による利用状況 アンケート結果	A (B) C D
③具体的な進路目標を持たせる取組 相談活動の充実等	就職、進学希望状況 アンケート結果	A B (C) D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・求人状況が数年前よりも大きく好転したこともあり、ほぼ生徒の希望に添った応募となったが、学科の特徴や学習の成果に基づいた就職希望ではない事例も多い。 ・3年生で「選抜ポイント」を意識する声が聞こえたが、1・2年生では十分浸透していない。 ・依然としてAO入試により早期に合格しようとする生徒がおり、進路について十分検討させることができたかの検証が必要である。 	総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善 学年会と連携し、1・2年生の進路意識を向上させる。		

2 領域・分野	◇特別活動	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事に積極的に参加する生徒が多くなってきている。 ・部活動の登録状況を見ると女子の運動系部活動への参加が男子に比べ少ない。（男子が75%、女子が37%） ・昨年度のボランティア活動への参加する生徒数が一昨年に比べて減少していた。 ・部活動の活性化の具現化、女子の運動系部活動への参加やボランティア活動推進を検討する必要がある。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 行事の更なる工夫・充実と検討 (2) 部活動の活性化を推進 (3) LHRの充実 (4) ボランティア活動の推進	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	特別活動部を中心に教務部、生徒指導部、進路指導部、渉外部、農場部、学年会と協力・連携して実施していく。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 行事の検討と生徒の主体的活動を図る。学校行事の運営を通じて委員会活動を活性化する。 (2) 部活動の活性化を図る。毎月5の付く日の「部活動の日」の有効利用。部長会や夏休み前などの部活動激励会の実施。伝達表彰・壮行会を工夫しての実施。部活動PRの工夫（ホワイトボード等の利用） (3) クラスでのLHRの時間確保とLHRノート（青春を探ろう）を活用した授業展開 (4) 地域と連携したボランティア活動に積極的な参加を促す（啓発の工夫）	(1) 各行事・各委員会活動に生徒自ら積極的に取り組むことができたか。執行部が前面に出ているか。 (2) 部活動の定期活動状況調査（部長会等利用して）、部活動についての意識調査（生徒・教員）、活性化につなげる取組ができていないか。 (3) 充実したLHR活動ができるか。（LHRノート使用回数調査） (4) ボランティア活動に参加できているか。	

8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・各行事や各委員会活動に積極的な取組ができた。生徒会執行部が中心になって行事運営できた。 ・部活動活性化のための様々な試みを実施した。 ・各学級で年間計画に基づくHR活動を実施した。 ・ボランティア活動を学級委員中心に啓発した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事における生徒・職員のアンケート結果 ・部長による毎月の活動報告、出席簿の提出状況での把握 ・LHRノートの有効活用 ・ボランティア参加状況の把握 	A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D
1 1 成果・課題 ○前期の対面式、球技大会、オープンキャンパスなどの行事で執行部、委員会などが運営等に頑張った。 ○後期も体育大会、緑園祭など委員会、執行部が運営の中心で頑張っていた。 ○部活動は、運動部の地区総体等での成績が向上している。吹奏楽部や畜産調教部を始め文化系の活躍も目立つ。マイクロバスの利用も増している。インターハイ出場選手も4名いた。 ○LHRノートの活用状況の把握を要する。		総合評価 A (B) C D
1 2 来年度に向けての改善方策案 ①部活動表彰規程の見直し ②本年度実施した部活動活性化の取組（部活動の日、部長会、部活動カードなど）の一層の充実 ③ボランティア活動の取り扱い方の工夫による参加者の増加 ④「部活動アンケート」を踏まえて以下の事項の検討を行い、部活動活性化の具体策を提案し実行 <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の1年生全員加入の是非 ・女子生徒の部活動を継続させるための具体策 ・部活動の日など部活動に参加できない生徒、幽霊部員の対策 など 		

2 評価する領域・分野	◇保健管理、安全管理	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	項目「生徒の安全・衛生面に配慮し、安全指導をしている」、「地震や台風などの場合の対応についてのマニュアルが知らされている」については生徒、保護者ともにほぼ満足を得ている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・健康への関心を持ち、自主的な健康管理ができる力をつけさせる。また、心身ともに安定した学校生活を送るための支援を行う ・学習環境の整備と美化意識の高揚を図る。 ・安全・安心して生活を送るための指導を徹底する。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	保健厚生部が中心に教務部、生徒指導部、学年会、保護者との連携を密にし「生徒の安全・衛生面」について周知徹底を図る。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) ・健康診断結果から個別指導の実施 ・利用者記録の活用 ・関係職員と連携を取りながら対応する (2) 全校一斉掃除による学習環境の美化 (3) 自然災害に備え、実情に即したマニュアルの作成と実施	(1) 受診率、日常生活の変容はあったか(アンケート) 来室状況の統計、来室利用記録の活用状況 (2) 掃除出席簿の利用と大掃除の実施状況 (3) 平成28年度用災害対応マニュアルの作成	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・受診の結果から個別指導を実施した。 ・インフルエンザ流行の予防のために、学級閉鎖、予防の呼びかけ、消毒指導を実施した。 ・清掃活動を毎日実施し、分別処理・回収に力を入れた。また、清掃道具の充実も図った。 ・地震と火災を想定した抜打ち訓練を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の出欠状況、来室状況 ・ゴミ収集場所の利用状況把握と各クラスにて環境チェック ・人員点呼時と避難時の状況把握 	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ・保健講話、歯科衛生講習会を実施し、生徒の健康意識の向上が見られた。 ・インフルエンザの流行を防ぐため、早期発見、早期予防に力を入れたい。 ・年度途中であるが、教室等の点検チェック(毎月)をすることができた。 	
		総合評価 A (B) C D

	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除用具の整備をきちんとし、不足・破損個所の対応に力を入れた。 ・命を守る訓練での人員点呼では、早く正確に報告することができた。 	
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康診断については、まだまだ意識が低い生徒がいるので機会あるごとに呼びかけをしていく。 ・インフルエンザの対応については、マニュアルを作り早期発見、早期予防をしていく。 ・新しくなったトイレ、廊下等の清掃を含め日頃の美化意識をより向上させるため、厚生委員を中心に月一回は清掃チェックを計画する。 ・命を守る訓練は大地震を想定し、起震車を使った揺れ体験と休み時間での訓練を計画する。 		

2 領域・分野	◇農業教育、農場運営、農場管理	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	本校が農業に関する実践的な能力や態度を育てていることや資格取得に対する指導を積極的に行っていることは、多くの方々に理解されている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と一体となったプロジェクト活動の推進 ・地域農業経営者との連携活動の推進 ・実験実習の内容と指導方法の工夫 ・安全教育の徹底・施設設備の管理 ・農場の環境整備 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・農場部組織を管理部と教育研修部に構成し運営を図る。 ・各学科、農場が協同し地域と連携を実施する。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 地域課題の発掘と地域連携 (2) 各種農業研修の充実とキャリア教育の推進 (3) 教科指導の情報交換会を実施 (4) 農場の安全管理・操作マニュアルの徹底 (5) 作付け等の表示看板等の設置（長期計画）	(1) プロジェクトの内容と発表会 (2) 研修先からの意見と感想及び発表会 (3) 生徒の様子と情報交換会の実施状況 (4) 事故や怪我等が無い。実習製品の衛生管理や施設設備の管理と使用マニュアルの作成 (5) 農場環境整備の進展状況	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 地域の課題を取り入れたプロジェクトテーマと地域連携 (2) 農業研修とキャリア教育 (3) 教科指導内容についての情報交換会の実施 (4) 農場安全管理 (5) 表示看板などの設置	(1) プロジェクトテーマと地域連携 (2) 研修先の意見や感想と発表会の内容 (3) 情報交換会の内容 (4) 事故や怪我の有無と安全マニュアルの作成 (5) 表示などの整備状況	A (B) C D A (B) C D A (B) C D (A) B C D A (B) C D
11 成果・課題	地域と連携したプロジェクトテーマの設定ができているが、全体のレベルアップが課題である。 各科でインターンシップのまとめや報告会ができた。また、指導農業士会との交流や第2回井戸「畑」会議も実施することができた。全国農業担い手サミットに全面協力した。 全体の教科指導の情報交換会を開けなかったが、学科単位での情報交換ができた。 大きな事故・怪我もなく安全指導ができた。基本に戻り、今後も安全指導を徹底する。農場等の表示の整備が完了した。	総合評価 A (B) C D
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題を取り上げたプロジェクト活動を重視し、地域との連携を密にして研究成果を地域に戻せるような活動 ・井戸「畑」会議や指導農業士会との交流の継続、外部機関との連携 ・安全指導と農場整備・表示の更なる推進 		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成29年1月24日

【意見・要望・評価等】

- ・加茂農林高校の生徒は、各学科で学んでいることなど、持ち味を生かして地域とよく連携しており、頼もしい。今後も地域の課題解決の一翼を担う活動や研究を続けてほしい。
- ・生徒の話などを聞くと、学校や学科に誇りを持ち一生懸命学習してきた様子や、加茂農林高校に入学して良かったという強い思いを感じることができ、加茂農林高校が地域にとって本当に必要な学校であると再認識できた。
- ・特色のある高校に入学して学習意欲が湧き成長できた様子や、互いに理解し助け合って部活動と専門学習を両立させている一生懸命な生徒たちの様子が分かり、嬉しくていい気持ちになった。これからも頑張ってもらいたいし、応援していきたい。
- ・生徒及び保護者等を対象としたアンケートの結果を見ると、全般的に極めて高い評価であり、特に、「本校に入学できて良かった」という生徒と「子どもは喜んで学校に行っている」という保護者が、ともにほぼ100%に迫っている。素晴らしい結果であり、様々な教育活動が成果を上げていることが顕れている。
- ・生徒及び保護者等を対象としたアンケートを的確に分析しており安心した。また、それを全職員で共有し、課題を明確にして改善に取り組んでいることが素晴らしい。
- ・アンケート結果や生徒の様子を見ると、教員の頑張りが窺い知れるが、加重負担にならないよう、業務を精選することも視野に入れながら学校運営してほしい。